2022 年度　学校評価報告書

（自己評価・授業評価・学校関係者評価及び次年度方針）

2023 年 7 月 25 日
大阪信愛学院中学校高等学校
学校評価委員会

はじめに

学校教育法及び同施行規則に基づき、本校において学校評価を実施するため、２０２３年２月に本校の教員、及び３月に保護者に「学校自己評価アンケート」を実施した。また、生徒には「授業評価アンケート」を１２月に Web 配信し、結果を集約した。その後、中学校高等学校の保護者の代表役員、卒業生の代表役員、卒業生保護者の代表役員に学校関係者評価を実施していただいた。本文書は学校評価委員会が分析したものである。

本校の設立母体は、フランスに本部のある「ショファイユの幼きイエズス修道会」である。系列校は日本に４校あるが、系列校の中で保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、そして大学を併設しているのは本校のみである。系列校と共にキリスト教的価値観に基づき、自分と他者がかけがえのない存在であることを認識するとともに、特に弱い立場に立って物事を考えることができる価値観を育んでいる。

本学校評価は本校の現状及び課題を再認識する契機として位置づけ、伝統の上にたった変革を成し遂げるための有効な検証の手段としてとらえている。

１．建学の精神

「キリストに信頼し、愛の実践に生きる」

１８７７年（明治１０年)、フランスから派遣された４人のシスターたちは捨て子たちを養育することから始めた。それは「隣人を自分のように愛しなさい」というキリスト教的精神の表れある。その精神に従い、弱い者、困っている者、傷ついている者に手を差し伸べるという行為を実践した。

１８８４年（明治１７年)、大阪の川口居留地に最初の女学校が創立された。信愛に集う生徒たちが建学の精神を体現し、社会に貢献することを目指す。

２．教育目標

（１）キリストの教えに根ざした教育

キリストの人間観・価値観、及び『幼きイエズス修道会の精神』を基盤として、生徒の宗教心を呼び覚まし、心豊かな人間を育成する。

（２）一人ひとりを大切にする教育

キリスト教的教育理念の中心である『神の愛』を土台として、生徒と教師、生徒相互の関わりを通して一人ひとりが大切にされ、受け入れられるよう配慮し、相互の人権を尊重する精神と態度を育てる。

（３）能力の開発を目指す教育

生徒一人ひとりが与えられた能力に気づき、それを最大限に開発して、知・徳・体の調和のとれた人間となるよう育成する。

（４）自己形成を促す教育

人間としての生き方を自覚し、主体性をもった学習や生活による目標の実現を目指し、常に自分自身の成長を図ろうとする自己形成力を持った生徒を育成する。

（５）社会貢献への態度を育成する教育

各自の能力・個性を十分に生かし、時の動きに対応したよりよい社会の実現に貢献していくことのできる生徒の育成を図る。

３．目指す教師像

教員の意識向上、及び組織の健全化を図るために、令和元年度よりモチベーション・マネジメント制度（教員評価制度）を導入している。モチベーション・マネージメント制度は、学校目標を各学年・各分掌にブレイクダウンし、さらに各々の教員がそれに沿って目標を設定する。これによって、個人の目標と学校目標が連動し、学校目標が効率よく達成されることを目指したものである。年度始めに、自身が所属するリーダーと目標設定を行い、中間フォロー、学年末の振り返り面談等を通して、目標達成を目指すために個々が PDCA サイクルを回す。また、キャリアパスと各段階での役割を明確にすることで、組織の健全化を図る。このモチベーション・マネジメント制度の設計にあたり、「目指す教師像」を明文化し、それをもとに議論を進めた。以下に本校の目指す教師像を示す。

キリストに信頼し、愛の実践に生きる教師

〈生徒に対して〉

・生徒の無限の可能性を信じ、成功と失敗を通して成長を支える教師
・コミュニケーションを十分にとって信頼される教師
・温かさを持って、場面に応じて厳しく指導できる教師

〈チーム（組織・同僚）に対して〉

・学校の目標に向かって率先して行動し、協働する教師
・敬意、感謝、信頼をもって、お互いに言うべきことは言い合う教師
・コミュニケーションを十分にとって助け合う教師

〈自身に対して〉

・専門分野に精通し、授業力、指導力を高め続ける教師
・向上心を持って新しいことに挑戦しながら、振り返り、改善できる教師
・社会とつながり、広い視野をもち、新しい教育を追究する教師
・常に心が健やかな教師

４．教育コンセプト

建学の精神、教育理念、教育方針、教育目標と、現代・これからを生きる生徒に必要な力を考え、以下の通り、教育コンセプトを設定している。

知識と技能を反復によって定着させた上で、現代を生きるために必要な**〈学ぶ力〉〈心〉〈姿勢〉**を育成する。

〈学ぶ力〉Academic skills

探究力・学び続ける力・コミュニケーション力の３つの「学ぶ力」を育成する。

〈心〉Mind

違いを受け入れ、かけがえのない存在であることを認め合う「心」を育成する。

〈姿勢〉Attitude

先を見据える「姿勢」、自分の考えや行動を省み改善する「姿勢」を育成する。

５．2022 年度（令和 4 年度）学校目標

建学の精神の具現化を目指し、本校の教育目標の達成と学院の発展を図るために、次の内容を重点目標に掲げた。

（１）目指す教師像の実現
（２）教育コンセプトの実現
（３）ICT の活用充実
（４）学習意欲及び学力向上
（５）進学実績の向上
（６）入学者数の増員

2022年度（令和4年度）　学校目標と具体的方策及び評価指標

	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
（1）	目指す教師像の実現	モチベーション・マネージメント制度によって、教員の意識向上と行動の変容を図る。	モチベーション・マネジメント制度において、教員による自己評価を行い、年度末における達成率が80%
（2）	教育コンセプトの実現	①教員及び生徒に自己評価アンケートを実施し、意識付けを行う。 ②教育コンセプトと各行事を結びつけ、振り返りを実施する。	・教員による学校評価アンケート該当項目80% ・生徒による自己評価を行い、該当項目80% ・保護者による学校評価アンケート該当項目80%
（3）	ICTの活用充実	教員用iPadの追加導入及び、各授業におけるChromebookの利用調査を行う。研究授業においても積極的にICTを活用する。	・教員による学校評価アンケート該当項目80% ・保護者による学校評価アンケート該当項目80% ・生徒による自己評価アンケートを行い、該当項目80%
（4）	学習意欲及び学力向上	①授業評価アンケートの振り返りを実施し、課題等を共有することで改善を促す。	授業評価アンケート該当項目80%
		②英検・GTECスコア・漢検の各学年における指標を示し、生徒が率先して学習に取り組む姿勢をサポートする。	英検 中1)4級80%　中2)3級50%　中3)3級80% 高1)文理系準2級50% その他3級60% 高2)文理系2級60% その他 準2級40% 高3)文理系2級80% その他 準2級60% GTEC スコア平均を各学年40以上上昇 漢検 中1)4級50%(5級100%)　中2)4級100% 中3)S文理3級100% 学際3級50% 高1)特進準2級50%(3級100%) 総合・看護3級50% 高2)文理系準2級100% ソレイユ・看護・子ども3級100% 高3)文理系2級50% ソレイユ・看護・子ども準2級50%
（5）	進学実績の向上	生徒の能力を最大限に伸ばし、希望する進路を実現するための学習指導と進路指導を担任と教科担当者が密に連携して実現する。	国公立大・関関同立）合格者数20名 産近甲龍・三女子大）合格者数30名
（6）	入学者数の増員	①共学1年目となる新入生の満足度が高くなるように学びの環境を整え、受験生とその保護者にアピールする。 ②重点地域を意識した募集活動を行う。 ③各種イベント、広報ツール・方法を改善する。	入学者数 中学）４０名以上 高校）２１０名以上

６．2022 年度（令和 4 年度）学校評価アンケートと結果分析 及び 評価

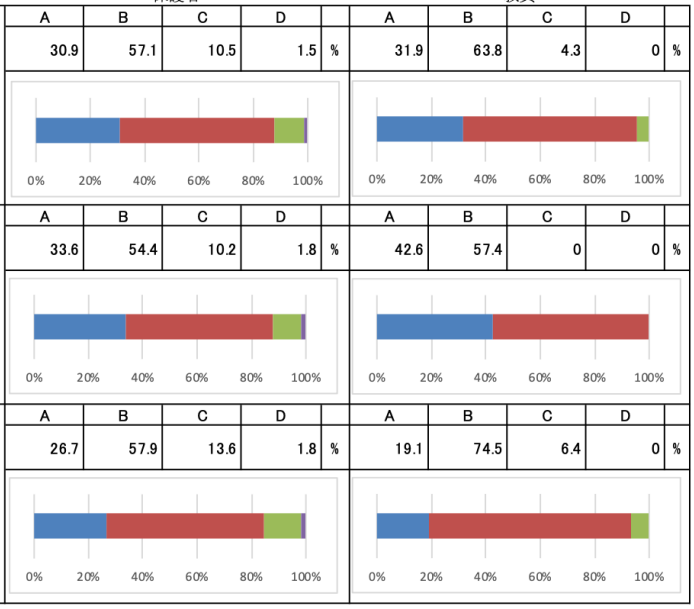
アンケートは、７分野２５項目について行った。結果と分析は以下の通りである。分析はＡ（よくあてはまる）を＋2、Ｂ（ややあてはまる）を＋1、Ｃ（あまりあてはまらない）を−１、Ｄ（まったくあてはまらない）を−2 として、各評価 A〜D の割合に乗じたものを下段にスコアとして中学と高校別に示した。スコア 0.8 以上のものを良好と考え、それよりスコアが下回るものを要検討事項と考えた。

A：信愛教育・教育コンセプトについて

【結果】

A:よくあてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:まったくあてはまらない

評価項目			保護者 A	保護者 B	保護者 C	保護者 D		教員 A	教員 B	教員 C	教員 D	
A:信愛教育・教育コンセプトについて	1	〈学ぶ力〉 探究力・学び続ける力・コミュニケーション力の3つの「学ぶ力」が育成されている	30.9	57.1	10.5	1.5	%	31.9	63.8	4.3	0	%
	2	〈心〉 違いを受け入れ、かけがえのない存在であることを認め合う「心」が育成されている。	33.6	54.4	10.2	1.8	%	42.6	57.4	0	0	%
	3	〈姿勢〉 先を見据える「姿勢」、自分の考えや行動を省み改善する「姿勢」が育成されている。	26.7	57.9	13.6	1.8	%	19.1	74.5	6.4	0	%



＜１＞〜＜３＞

評価項目番号	中学保護者 A(%)	中学保護者 B(%)	中学保護者 C(%)	中学保護者 D(%)	中学保護者 スコア	高校保護者 A(%)	高校保護者 B(%)	高校保護者 C(%)	高校保護者 D(%)	高校保護者 スコア	教員 A(%)	教員 B(%)	教員 C(%)	教員 D(%)	教員 スコア
設問_1	28.1	57.9	14	0	1.00	31.7	56.9	9.6	1.8	1.07	31.9	63.8	4.3	0	1.23
設問_2	26.3	61.4	10.5	1.8	1.00	35.5	52.5	10.1	1.8	1.10	42.6	57.4	0	0	1.43
設問_3	22.8	56.1	19.3	1.8	0.79	27.8	58.3	12	1.9	0.98	19.1	74.5	6.4	0	1.06

【分析と改善策】

中学において＜項目３＞が要検討事項と読み取れる。現在使用している夢未来ノートの活用の保護者への周知や、それ以外の取り組みについて情報発信も含めて検討していく。

【評価】

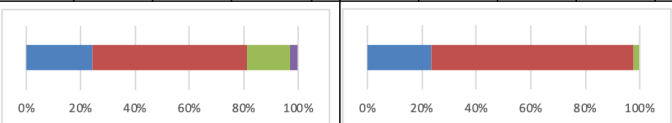
「信愛教育・教育コンセプトについて」の今年度の評価は、要検討事項が１項目あるため、A〜C の３段階で評価（評価 A が最も評価が高い）し、B とする。

B：教科指導について

【結果】

A:よくあてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:まったくあてはまらない

評価項目			保護者 A	保護者 B	保護者 C	保護者 D		教員 A	教員 B	教員 C	教員 D	
B:教科指導について	4	必要な学力が定着、向上する授業が行われている	24.2	56.8	16.1	2.9	%	23.4	74.5	2.1	0	%
	5	必要な学力が定着、向上する適切なコースやカリキュラムが設定されている	29.8	51.8	16.5	1.8	%	27.7	66.0	6.4	0	%
	6	放課後や長期休業中に、講座や補習が必要に応じて行われている	35.4	48.2	14.6	1.8	%	46.8	46.8	4.3	2.1	%
	7	学校として必要な国際教育が行われている	32.1	51.8	16.1	0	%	51.1	48.9	0	0	%
	8	ICTを活用して学習効率を向上させる指導が行われている	32.8	56.2	9.9	1.1	%	46.8	53.2	0	0	%



＜４＞～＜８＞

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員				
番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_4	24.6	50.9	22.8	1.8	0.74	24.1	58.3	14.4	3.2	0.86	23.4	74.5	2.1	0	1.19
設問_5	28.1	49.1	22.8	0	0.82	30.2	52.6	14.9	2.3	0.93	27.7	66	6.4	0	1.15
設問_6	47.4	40.4	8.8	3.5	1.19	32.3	50.2	16.1	1.4	0.96	46.8	46.8	4.3	2.1	1.32
設問_7	33.3	45.6	21.1	0	0.91	31.8	53.5	14.7	0	1.02	51.1	48.9	0	0	1.51
設問_8	33.3	52.6	10.5	3.5	1.02	32.7	57.1	9.7	0.5	1.12	46.8	53.2	0	0	1.47

【分析と改善策】

中学において項目＜４＞が要検討事項であると読み取れる。各教員における授業内容の見直しや、学力を向上させるような学習(授業)環境作りに努める必要がある。高校においては、昨年度に比べ、項目＜４＞＜５＞＜６＞の大幅な改善が見られているため、現在の改革をさらにブラッシュアップしていく。また、中学及び高校ともに項目＜７＞＜８＞は良好と読み取れることができるが、教員と保護者の認識の差は大きいため、それぞれの教育内容をしっかりと保護者に伝えていく必要がある。

【評価】

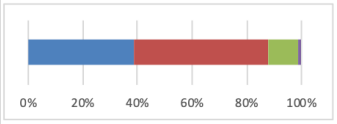
「教科指導について」の今年度の評価は、要検討事項が１項目あるため、A～C の３段階で評価（評価 A が最も評価が高い）し、B とする。

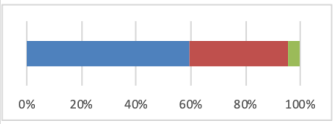
C：教科外活動について

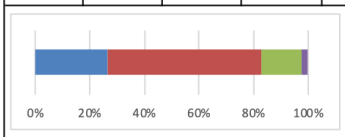
【結果】

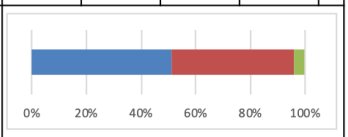
A:よくあてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:まったくあてはまらない

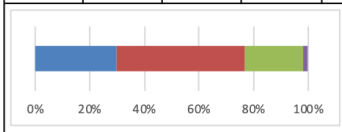
評価項目			保護者 A	保護者 B	保護者 C	保護者 D		教員 A	教員 B	教員 C	教員 D	
C:教科外活動について	9	部活動や生徒会活動が活発に行われている	38.5	49.5	11.0	1.1	%	59.6	36.2	4.3	0	%
	10	学校行事が充実している	26.5	56.3	15.1	2.2	%	51.1	44.7	4.3	0	%
	11	学内外の活動を通して、ボランティア精神を育む教育が行われている	29.7	46.9	21.6	1.8	%	8.5	74.5	17.0	0	%

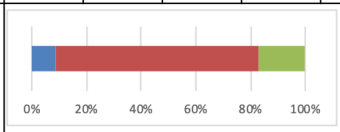












＜９＞～＜１１＞

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員				
番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_9	21.1	64.9	10.5	3.5	0.89	43.1	45.4	11.1	0.5	1.19	59.6	36.2	4.3	0	1.51
設問_10	33.9	46.4	14.3	5.4	0.89	24.5	58.8	15.3	1.4	0.90	51.1	44.7	4.3	0	1.43
設問_11	22.8	42.1	31.6	3.5	0.49	31.5	48.1	19	1.4	0.89	8.5	74.5	17	0	0.74

【分析と改善策】

中学においては項目＜１１＞が要検討事項と読み取れる。現在行っている学校周辺の清掃活動等の情報発信や、新たな取り組みを検討する必要がある。高等学校においては「赤い羽根共同募金活動」などが周知されていることが良好な結果に繋がっていると考えられる。ただし、同項目において教員のスコアが低く、ボランティア活動をさらに広げるべきと考えている教員が多いと考えられる。これらのデータをもとに、生徒会を通してボランティア活動の拡充を検討する必要があると考える。

【評価】

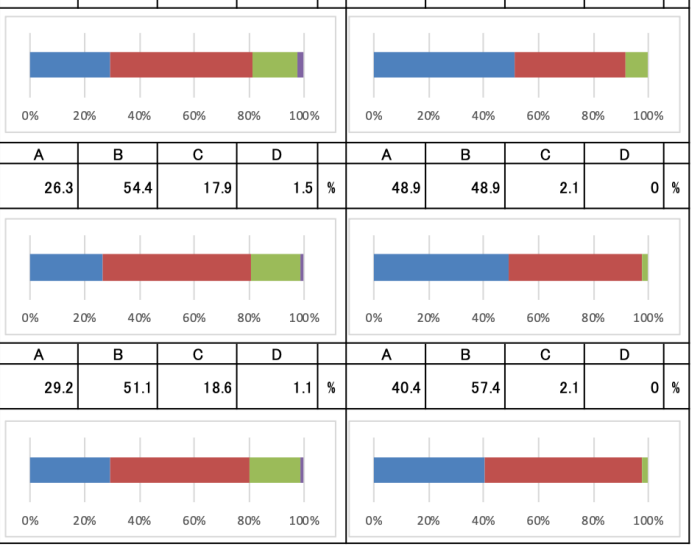
「教科外活動について」の今年度の評価は、要検討事項が１項目あるため、A～C の３段階で評価（評価 A が最も評価が高い）し、B とする。

D：進路指導について

【結果】

A:よくあてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:まったくあてはまらない

評価項目			保護者 A	保護者 B	保護者 C	保護者 D		教員 A	教員 B	教員 C	教員 D	
D:進路指導について	12	中学:日々の授業や面談、懇談が進路について意識を高める機会となっている 高校:生徒の希望に沿った進路指導が行われている	29.2	51.8	16.8	2.2	%	51.1	40.4	8.5	0	%
	13	中学:日々の授業やキャリア教育(職業体験・職場体験・大学体験)が将来を考えるための機会となっている 高校:進路説明会や進路プログラム、キャリア教育等が、生徒が将来を考えることのできる内容になっている	26.3	54.4	17.9	1.5	%	48.9	48.9	2.1	0	%
	14	中学:日々の授業や語学研修が英語四技能の総合的な育成や国際理解を深めるための機会となっている 高校:大学入試に対応した適切な指導(英語四技能等を含む)が行われている	29.2	51.1	18.6	1.1	%	40.4	57.4	2.1	0	%



＜１２＞～＜１４＞

評価項目番号	中学保護者 A(%)	中学保護者 B(%)	中学保護者 C(%)	中学保護者 D(%)	中学保護者 スコア	高校保護者 A(%)	高校保護者 B(%)	高校保護者 C(%)	高校保護者 D(%)	高校保護者 スコア	教員 A(%)	教員 B(%)	教員 C(%)	教員 D(%)	教員 スコア
設問_12	22.8	43.9	29.8	3.5	0.53	30.9	53.9	13.4	1.8	0.99	51.1	40.4	8.5	0	1.34
設問_13	21.1	52.6	22.8	3.5	0.65	27.6	54.8	16.6	0.9	0.92	48.9	48.9	2.1	0	1.45
設問_14	24.6	45.6	28.1	1.8	0.63	30.4	52.5	16.1	0.9	0.95	40.4	57.4	2.1	0	1.36

【分析と改善策】

今年度、中学の実情に合わせた評価項目となるように変更を行い、高校と評価項目を変えてアンケートを実施したが、項目＜１２＞＜１３＞＜１４＞の全項目ともに要検討事項と読み取れる。これは、懇談や各種体験学習、日々の授業が、それぞれ進路、将来、国際理解などを深めるものとなっていないと受け止め、改善していかなければならない。また、中学校の保護者向けの進路講演会等の検討も必要と考える。

【評価】

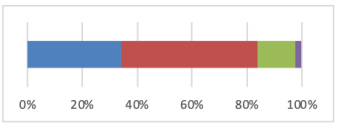
「進路指導について」の今年度の評価は、要検討事項が中学校に関して３項目あり、A～C の３段階で評価（評価 A が最も評価が高い）し、B とする。

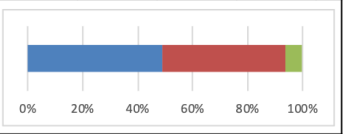
E：生徒指導について

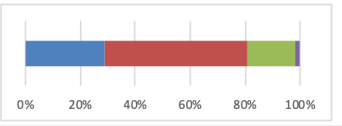
【結果】

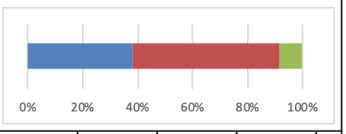
A:よくあてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:まったくあてはまらない

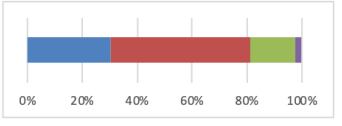
評価項目			保護者 A	保護者 B	保護者 C	保護者 D		教員 A	教員 B	教員 C	教員 D	
E:生徒指導について	15	教員の生徒指導や生徒への関わりが適切に行われている	33.9	50.0	13.9	2.2	%	48.9	44.7	6.4	0	%
	16	校内におけるいじめの早期発見、防止が適切に行われている	28.9	52.0	17.2	1.8	%	38.3	53.2	8.5	0	%
	17	生徒一人ひとりに対し、必要に応じて適切な支援が行われている	30.4	50.5	16.8	2.2	%	34.0	59.6	6.4	0	%

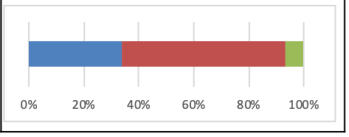












＜１５＞～＜１７＞

評価項目番号	中学保護者 A(%)	中学保護者 B(%)	中学保護者 C(%)	中学保護者 D(%)	中学保護者 スコア	高校保護者 A(%)	高校保護者 B(%)	高校保護者 C(%)	高校保護者 D(%)	高校保護者 スコア	教員 A(%)	教員 B(%)	教員 C(%)	教員 D(%)	教員 スコア
設問_15	33.3	43.9	21.1	1.8	0.86	34.1	51.6	12	2.3	1.03	48.9	44.7	6.4	0	1.36
設問_16	29.8	42.1	22.8	5.3	0.68	28.7	54.6	15.7	0.9	0.94	38.3	53.2	8.5	0	1.21
設問_17	31.6	47.4	17.5	3.5	0.86	30.1	51.4	16.7	1.9	0.91	34.0	59.6	6.4	0	1.21

【分析及び改善策】

中学においては＜１６＞が要検討事項であることが読み取れる。しかし、昨年度はスコア 0.27 と昨年度の評価項目の中で最も低いスコアであったこと、全項目が要検討事項であったことを考えると改善が見られる。これは、いじめを含めた友人間の諸問題の調査回数を増やしたこと、年に２回、「いじめと学校生活の不安」についてのアンケートを保護者に実施し、対応したことによるものと考えられる。ただし、その対応について、生徒指導部、カトリック・人権教育推進部、学年の連携を含めて改善していく必要があると考えられる。

【評価】

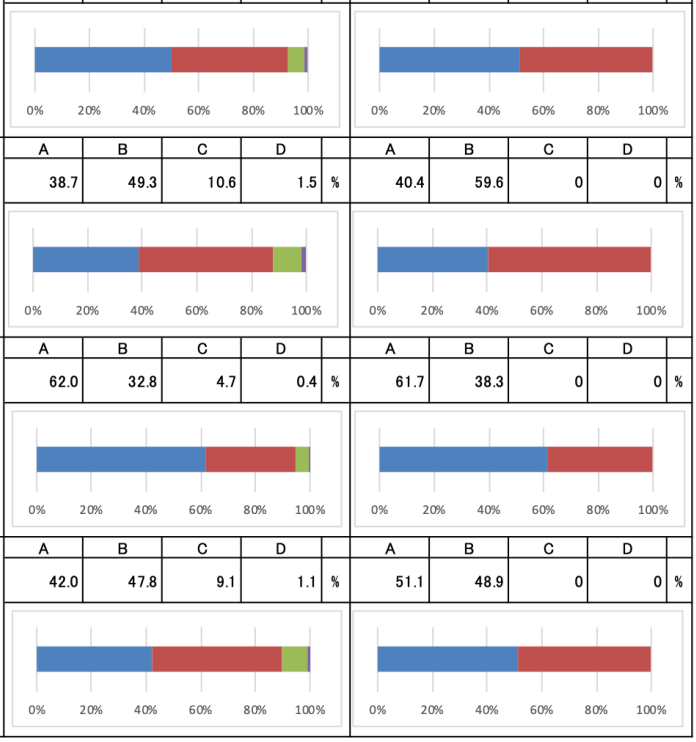
「生徒指導について」の今年度の評価は、要検討事項が１項目あるため、A～C の３段階で評価（評価 A が最も評価が高い）し、B とする。

F：保護者と学校との連携について

【結果】

A:よくあてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:まったくあてはまらない

評価項目			保護者 A	保護者 B	保護者 C	保護者 D		教員 A	教員 B	教員 C	教員 D	
F:保護者と学校との連携について	18	各種行事の案内が適宜行われている	50.0	42.7	6.2	1.1	%	51.1	48.9	0	0	%
	19	ホームページ(ブログ)やSNSによる情報配信が充実している	38.7	49.3	10.6	1.5	%	40.4	59.6	0	0	%
	20	Classiを使用した連絡が、適切に運用されている	62.0	32.8	4.7	0.4	%	61.7	38.3	0	0	%
	21	保護者説明会・個人懇談の内容、回数が適切である	42.0	47.8	9.1	1.1	%	51.1	48.9	0	0	%



＜１８＞～＜２１＞

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員				
番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_18	57.9	35.1	5.3	1.8	1.42	47.9	44.7	6.5	0.9	1.32	51.1	48.9	0	0	1.51
設問_19	45.6	42.1	10.5	1.8	1.19	36.9	51.2	10.6	1.4	1.12	40.4	59.6	0	0	1.40
設問_20	63.2	33.3	3.5	0	1.56	61.8	32.7	5.1	0.5	1.50	61.7	38.3	0	0	1.62
設問_21	40.4	47.4	12.3	0	1.16	42.4	47.9	8.3	1.4	1.22	51.1	48.9	0	0	1.51

【分析及び改善策】

昨年同様、中学及び高校ともに全項目良好な結果であった。ただし、今年度は項目＜１９＞については、現状に合わせた評価項目とし、「ブログ」や「SNS」などを含む情報配信とした。その結果、中学及び高校ともにスコアの上昇が見られた。今後も更なる情報配信に努めたい。

【評価】

「保護者と学校の連携について」の今年度の評価は、全て良好な結果であるため、A～C の３段階で評価（評価 A が最も評価が高い）し、A とする。

G：学校運営：開かれた学校づくり

【結果】

A:よくあてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:まったくあてはまらない

評価項目			保護者 A	保護者 B	保護者 C	保護者 D		教員 A	教員 B	教員 C	教員 D	
G:施設設備について、全般	22	学校内の施設や設備が適切に運用されている	31.1	52.4	14.3	2.2	%	25.5	55.3	17.0	2.1	%
	23	避難訓練等、学校の日常の危機管理対策が適切である	27.3	61.3	9.6	1.8	%	8.5	61.7	29.8	0	%
	24	電話や受付での応対が適切である	49.6	42.7	7.3	0.4	%	27.7	48.9	23.4	0	%
	25	信愛学院の教育に満足している	41.2	46.4	10.2	2.2	%	19.1	72.3	8.5	0	%

＜２２＞～＜２５＞

評価項目番号	中学保護者 A(%)	中学保護者 B(%)	中学保護者 C(%)	中学保護者 D(%)	中学保護者 スコア	高校保護者 A(%)	高校保護者 B(%)	高校保護者 C(%)	高校保護者 D(%)	高校保護者 スコア	教員 A(%)	教員 B(%)	教員 C(%)	教員 D(%)	教員 スコア
設問_22	39.3	55.4	5.4	0	1.29	29	51.6	16.6	2.8	0.88	25.5	55.3	17	2.1	0.85
設問_23	33.9	55.4	8.9	1.8	1.11	25.6	62.8	9.8	1.9	1.00	8.5	61.7	29.8	0	0.49
設問_24	54.4	40.4	5.3	0	1.44	48.4	43.3	7.8	0.5	1.31	27.7	48.9	23.4	0	0.81
設問_25	40.4	49.1	8.8	1.8	1.18	41.5	45.6	10.6	2.3	1.13	19.1	72.3	8.5	0	1.02

【分析及び改善策】

中校においては昨年度に比べ、項目＜２５＞の大幅なスコア上昇が見られたことはさまざまな改善や取り組みの成果であると考えられる。また、項目＜２３＞においては、教員のスコアから要検討事項であると読み取り、今年度の振り返りを行い、管理職及び危機管理委員で改善をしていくことが必須であると考える。

【評価】

「学校運営：開かれた学校づくりについて」の今年度の評価は、要検討事項が教員において１項目あるため、上記の改善が必要ではあるが、保護者のアンケート結果を鑑みてA～Cの３段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Aとする。

７．2022 年度（令和 4 年度）生徒授業評価アンケートと結果分析 及び 評価

アンケートの評価観点は 10 項目で、生徒が受講している全教科・全科目を対象に実施した。生徒たちの集中力を考慮して、項目が多くなりすぎないように心がけている。また、アンケートの結果は、全教員に配布し、以後の教育活動に活かすよう努めている。結果に関しては、全体、中学校、高等学校に分けてまとめた。

分析は、A（よくあてはまる）を＋2、B（ややあてはまる）を＋1、C（あまりあてはまらない）を−1 、D（まったくあてはまらない）を−2 として、各評価 A～D の割合に乗じたものを下欄にスコアとして示した。スコア 0.8 以上のものを良好と考え、それよりスコアが下回るものを要検討事項と考えている。

【結果】

授業評価アンケート　結果＜2022 年 12 月実施分＞　全体・中学校・高等学校

中高全体

	A	B	C	D	2022年度 A+B	2021年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	58.3%	34.9%	5.6%	1.3%	**93.2%**	93.1%
②その授業で何が重要なのかがわかる。	52.3%	38.4%	7.3%	1.9%	**90.7%**	89.7%
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	51.9%	37.3%	8.4%	2.4%	**89.2%**	88.9%
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	57.8%	35.2%	5.1%	1.8%	**93.1%**	92.5%
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	53.9%	36.7%	6.6%	2.9%	**90.5%**	88.9%
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	47.0%	42.3%	7.9%	2.8%	**89.3%**	87.0%
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	49.8%	36.5%	10.4%	3.3%	**86.4%**	86.3%
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	49.9%	38.9%	8.6%	2.6%	**88.8%**	87.3%
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	55.8%	34.7%	6.7%	2.8%	**90.5%**	88.9%
⑩先生の指導に満足している。	60.1%	32.1%	5.3%	2.5%	**92.2%**	91.5%

A：よくあてはまる　B：ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D：まったくあてはまらない

中学校

	A	B	C	D	2022年度 A+B	2021年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	43.1%	42.4%	12.3%	2.3%	**85.5%**	90.9%
②その授業で何が重要なのかがわかる。	40.8%	44.1%	12.1%	3.0%	**84.9%**	91.4%
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	39.1%	43.9%	12.9%	4.0%	**83.0%**	90.8%
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	47.9%	40.0%	8.8%	3.3%	**87.9%**	94.1%
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	45.1%	38.9%	11.0%	5.0%	**84.0%**	89.6%
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	31.9%	48.5%	14.4%	5.2%	**80.4%**	85.6%
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	38.1%	37.7%	19.1%	5.1%	**75.8%**	87.0%
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	38.0%	43.0%	14.7%	4.3%	**81.0%**	89.2%
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	47.7%	36.4%	11.5%	4.5%	**84.0%**	90.5%
⑩先生の指導に満足している。	53.6%	34.3%	8.7%	3.4%	**87.8%**	95.4%

A：よくあてはまる　B：ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D：まったくあてはまらない

高等学校

	A	B	C	D	2022年度 A+B	2021年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	61.5%	33.3%	4.1%	1.0%	**94.8%**	93.6%
②その授業で何が重要なのかがわかる。	54.8%	37.2%	6.3%	1.7%	**92.0%**	89.3%
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	54.7%	35.8%	7.5%	2.1%	**90.5%**	88.4%
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	60.0%	34.2%	4.4%	1.5%	**94.2%**	92.1%
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	55.8%	36.2%	5.6%	2.4%	**92.0%**	88.7%
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	50.2%	41.0%	6.6%	2.3%	**91.2%**	87.3%
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	52.3%	36.3%	8.5%	2.9%	**88.6%**	86.1%
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	52.4%	38.1%	7.3%	2.3%	**90.4%**	86.8%
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	57.5%	34.4%	5.7%	2.5%	**91.9%**	88.6%
⑩先生の指導に満足している。	61.5%	31.7%	4.6%	2.3%	**93.1%**	90.6%

A：よくあてはまる　B：ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D：まったくあてはまらない

＜１＞～＜１０＞

項目番号	中高全体					項目番号	中学					項目番号	高校				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア		A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア		A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
①	58.3	34.9	5.6	1.3	1.43	①	43.1	42.4	12.3	2.3	1.12	①	61.5	33.3	4.1	1.0	1.50
②	52.3	38.4	7.3	1.9	1.32	②	40.8	44.1	12.1	3.0	1.08	②	54.8	37.2	6.3	1.7	1.37
③	51.9	37.3	8.4	2.4	1.28	③	39.1	43.9	12.9	4.0	1.01	③	54.7	35.8	7.5	2.1	1.34
④	57.8	35.2	5.1	1.8	1.42	④	47.9	40.0	8.8	3.3	1.20	④	60.0	34.2	4.4	1.5	1.47
⑤	53.9	36.7	6.6	2.9	1.32	⑤	45.1	38.9	11.0	5.0	1.08	⑤	55.8	36.2	5.6	2.4	1.37
⑥	47.0	42.3	7.9	2.8	1.23	⑥	31.9	48.5	14.4	5.2	0.88	⑥	50.2	41.0	6.6	2.3	1.30
⑦	49.8	36.5	10.4	3.3	1.19	⑦	38.1	37.7	19.1	5.1	0.85	⑦	52.3	36.3	8.5	2.9	1.27
⑧	49.9	38.9	8.6	2.6	1.25	⑧	38.0	43.0	14.7	4.3	0.96	⑧	52.4	38.1	7.3	2.3	1.31
⑨	55.8	34.7	6.7	2.8	1.34	⑨	47.7	36.4	11.5	4.5	1.11	⑨	57.5	34.4	5.7	2.5	1.39
⑩	60.1	32.1	5.3	2.5	1.42	⑩	53.6	34.3	8.7	3.4	1.26	⑩	61.5	31.7	4.6	2.3	1.45

A：よくあてはまる　B：ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D：まったくあてはまらない

【分析及び改善策】

全体的に良好な結果であると読み取ることができる。ただし、授業に関しては常に改善を促し、教員個々の研鑽が必要である。今後も校内研修や研究授業によって授業力向上に努める。

【評価】

今年度の評価は、中学及び高校ともに、全項目のスコアが 0.8 以上と良好な結果であることから、A～C の３段階で評価（評価 A が最も評価が高い）し、A とする。

８．2022 年度（令和 4 年度）学校目標に対する評価及び次年度の課題と改善策

評価項目（1）目指す教師像の実現	自己評価
具体的方策①　モチベーション・マネージメント制度によって、教員の意識向上と行動の変容を図る。 ＜活動実績と自己評価＞ モチベーション・マネージメント制度導入４年目となり、運用もほぼ円滑にできている。FF シート（評価シート）に「目指す教師像」の自己評価項目を設定しており、教員が年度の中間に各項目の振り返りを評価者とともに行い、年度末に最終の自己評価を行う。今年度は評価を変更し、各項目 s・a・b・c の４段階評価にして、s は「十分満足できる」、a は「満足できる」、b は「満足できないことが若干ある」c は「満足できない」とした。各項目の人数の割合を平均し、s・a を良好として考えると、評価指標とした 80%を超える項目は「コミュニケーションを十分にとって助け合う教師」の１項目に留まった。全項目の s・a の人数割合の平均は 63.6%であった。平均が 50%台の項目は「コミュニケーションを十分にとって信頼される教師」「学校の目標に向かって率先して行動し、協働する教師」「社会とつながり、広い視野をもち、新しい教育を追求する教師」であり、改善が必要である。 ＜次年度の課題と改善策＞ 特に、上記に挙げた人数割合の平均が 50%台に留まった項目「コミュニケーションを十分にとって信頼される教師」「社会とつながり、広い視野をもち、新しい教育を追求する教師」に関しては管理職による仕事量の調節の管理、各人における振り返りと行動改善が必要である。「学校の目標に向かって率先して行動し、協働する教師」に関しては、改めて学校目標を明確化し、組織的に達成する構造を管理職が示す必要がある。	B

評価項目（２）教育コンセプトの実現	自己評価
具体的方策①　教員及び生徒に自己評価アンケートを実施し、意識付けを行う。 ＜活動実績と自己評価＞ 教員による学校自己評価アンケートの該当項目人数割合平均が「よくあてはまる」31.2.%、「ややあてはまる」65.2%という結果であり、目標の評価指標を達成することができた。 生徒による自己評価アンケートの該当項目人数割合平均が「かなり身についているように感じる」14.1%、「身についているように感じる」38.1%、「少し身についているように感じる」43.1%であり、目標の評価指標を達成することができた。ただし、「少し身についているように感じる」生徒の割合が多いことには留意しなければならない。 保護者による学校自己評価アンケートの該当項目人数割合平均が「よくあてはまる」30.4%、「ややあてはまる」56.5%という結果であり、中高としては目標の評価指標を達成することができた。 ＜次年度の課題と改善策＞ 教育コンセプトで掲げている教育内容は、今後もその実践に努めなければならないことに変わりはない。ただし、次年度は本教育コンセプトを受け継ぎながら、新たに作成したスクールポリシーによって、生徒、保護者、教員に本校の教育内容を具体的に、さらに分かりやすく浸透させていく。	A
具体的方策②　教育コンセプトと各行事を結びつけ、振り返りを実施する。 ＜活動実績と自己評価＞ 各行事の要項を作成する際には、その目的に教育コンセプトが反映されるようにした。また、各行事の生徒の振り返りにあたっては、教育コンセプトを意識したアンケート等になるようにした。 ＜次年度の課題と改善策＞ 上記、具体的方策①と同じように、次年度はスクールポリシーを各行事と結びつけていく。	自己評価 A

評価項目（３）ICT の活用充実	自己評価
具体的方策　教員用 iPad の追加導入及び、各授業における Chromebook の利用調査を行う。研究授業においても積極的に ICT を活用する。 ＜活動実績と自己評価＞ 今年度も教員用の iPad を追加導入し､学校全体として効率的に ICT の活用ができるようにした。生徒端末の Chromebook 導入も２年を経過したが順調に運用が進んでいる。３月に各授業における Chromebook の活用調査を行ったが、多くの授業や課題配信で利用されることも確認できた。ただし、今年度は校内研究授業を実施することはできなかった。 教員による学校自己評価アンケート該当項目は「よくあてはまる」46.8%、「ややあてはまる」53.2%と、ついに教員の ICT 利用の良好と考える結果が 100%となった。もちろん、目標の評価指標を達成することができた。 保護者による学校自己評価アンケート該当項目は「よくあてはまる」32.8%、「ややあてはまる」56.2%であり、目標の評価指標を達成することができた。 生徒による自己評価アンケートは「ICT(iPad や Chromebook など)を十分に学習に活用でき、学力向上につながっている」13.9%、「ICT(iPad や Chromebook など)をかなり学習に活用できている」23.6%、「ICT をある程度学習に活用できている」48.1%であり、目標の評価指標を達成することができた。ただし、「ICT をある程度学習に活用できている」に留まっている生徒が多いことには留意しなければならない。 ＜次年度の課題と改善策＞ 引き続き ICT の活用充実を図る。今回行った Chromebook 利用調査から、教育効果が高いと考えられるＩＣＴについて、希望者を募って研修を実施する。また、ICT をどのように使用しているかも今年度同様に、具体的に保護者に発信し続ける必要はある。	B

評価項目（４）各コース毎の学習習慣の改善・成績向上・進路実績向上	自己評価
具体的方策①　授業評価アンケートの振り返りを実施し、課題等を共有することで改善を促す。 ＜活動実績と自己評価＞ 「2021 年度(令和３年度)生徒授業評価アンケートと結果分析」をもとに、2022 年度(令和４年度)冒頭に全教員でアンケート結果を共有し、振り返りを行った。また、「７．2022 年度（令和４年度）生徒授業評価アンケートと結果分析」に記載した通り、中高ともに全項目良好な結果であった。目標の評価指標を達成することができた。 ＜次年度の課題と改善策＞ 授業評価アンケート結果は良好であったが、中高ともに大学入試を見据えた授業を展開していく必要がある。今後は高等学校の５教科において、進学実績の目標を見据えた各学年・各学期における到達度の設定を行っていきたいと考えている。また、今年度掲げた授業改革である学内の定期試験のみならず、模試等の成績についても安定した高い学力が維持できるような授業作り、指導体制をさらに強化していく。	A
具体的方策②　英検・GTEC スコア・漢検の各学年における指標を示し、生徒が率先して学習に取り組む姿勢をサポートする。 ＜活動実績と自己評価＞ 各学年における英検・GTEC スコア・漢検の指標を英語科・国語科より示し、それぞれの目標達成に向けて生徒の学力サポートに努めた。 ・英検の各学年における目標達成率については次の通りである。※(　)内が目標の評価指標 目標を達成できた、または、ほぼ達成と考えられる学年・コースもあるが、すべての学年・コースにおいて達成できたわけではない。 中１）４級 34.4%(80%)　中２）31.3%(50%)　中３）75%(80%) 高１）特進コース準２級 40.8%(50%)　その他コース３級 43.5%(60%) 高２）文理 S・文理コース２級 52.6%(60%)　その他のコース準２級 43.8%(40%) 高３）文理 S・文理コース２級 55.6%(80%)　その他のコース準２級 39.4%(60%) ・高校 GTEC スコアにおける評価指標については、各学年とも目標(全学年の平均スコア＋40 以上)を達成することができた。 高２）高１→高２の平均スコア ＋80　　高３）高２→高３の平均スコア ＋129 ・漢検の各学年における目標達成率については次の通りである。※(　)内が目標の評価指標 目標を達成できた、または、ほぼ達成と考えられる学年・コースもあるが、すべての学年・コースにおいて目標を達成できたわけではない。 中１）４級 28.1%(50%)・５級 28.1%(100%) 中２）４級 65.5%(100%) 中３）スーパー文理３級 75%(100%)・学際３級 50%(50%) 高１）特進コース準２級 35.2%(50%)・３級 46.3%(100%)　その他コース３級 36.5%(50%) 高２）文理 S・文理コース準２級 87.5%(100%)　その他コース３級 75.0%(100%) 高３）文理 S・文理コース２級 11.1%(50%)　その他コース準２級 17.6%(50%) ＜次年度の課題と改善策＞ 中学は英検、漢検ともに中３では最終的な目標が達成されるが、中１と中２の途中段階での取得率に課題があるため、英語科、国語科を中心に対策を検討し、実行する。 高校は高３時の取得級の低さが課題と考えられるため、中学同様、高１と高２の段階でいかに取得率を上げるかを英語科、国語科を中心に対策を検討し、実行する。また、漢検においては、学校での実施時期が英検と重なるため、実施時期についても再検討する。	自己評価 B

評価項目（５）進学実績の向上	自己評価
具体的方策　生徒の能力を最大限に伸ばし、希望する進路を実現するための学習指導と進路指導を担任と教科担当者が密に連携して実現する。 ＜活動実績と自己評価＞ 今年度の進路結果に関しては以下の通りであり、国公立及び関関同立の合格者数に関しては、目標の評価指数を達成することができた。しかし、産近甲龍及び三女子大の合格者数に関しては、僅かではあるが目標の評価指数に達しなかった。 国公立大・関関同立）合格者数 27 名（国公立 6 名　　関関同立 21 名）　※評価指標 20 名 産近甲龍・三女子大）合格者数 25 名（産近甲龍 9 名　三女子大 16 名）　※評価指標 30 名 ＜次年度の課題と改善策＞ 新高３生においては、文理Ｓ・文理コースにおいて京阪神大または旧帝大を含む国公立大学の合格者数を伸ばすことを目標とし、進学ソレイユ・看護医療・進学エトワール・子ども教育コースにおいては、指定校推薦制度に頼らない総合方選抜、学校型選抜(公募制)、一般入試を含む産近甲龍・三女子大の合格者数を伸ばすことを明確な目標とする。そのために、学年と５教科担当者(主に令和４年度高３担当と令和５年度高３担当)が密に連携し、生徒の学習状況を分析・共有し、最大限の学力向上に努める。	B

評価項目（６）入学者数の増員	自己評価
具体的方策①　共学１年目となる新入生の満足度が高くなるように学びの環境を整え、受験生とその保護者にアピールする。 ＜活動実績と自己評価＞ 共学１年目となる新入生の満足度が高くなるように、中高ともに授業や行事等をはじめ、学校生活全般の整備を行った。中学においては多様な学習コンテンツの充実から手厚い指導をアピールし、高校においては校内予備校講座や学習メンター制度など放課後の学びの環境拡充をアピールした。入学者数の結果は中学 34 名、高校 233 名であった。中学においては僅かではあるが目標としていた 40 名を超えることができなかった。高校においては昨年度に引き続き、さらに入学者を増やすことができ、目標数も超えることがでた。中高トータルで考えると目標を達成することができた。 ＜次年度の課題と改善策＞ 中学に関しては、アピール内容を質の高い授業内容に加え、高校と同様に放課後学習などの充実を図り、アピールすつ必要があると考えている。高校については入学者数の維持及び増員を目指して、さらに学びの環境を整え、それらを受験生や保護者にしっかりとアピールしていく必要がある。	A
具体的方策②　重点地域を意識した募集活動を行う。 ＜活動実績と自己評価＞ 近隣の中学校との連携を強化し、各種イベント案内や学校の説明などの募集活動も行った。結果及び評価に関しては具体的方策①で示した通りであるが、それに加え、城東区、旭区、鶴見区からの受験生が顕著に増加した。 ＜次年度の課題と改善策＞ 引き続き、近隣中学校との連携を強化し、受験につながるように募集活動を行っていく。また、新たな近隣中学校での説明の機会を確保できるようにしたい。	自己評価 A
具体的方策③　各種イベント、広報ツール・方法を改善する。 ＜活動実績と自己評価＞ 各種イベントについては、オープンキャンパスや入試説明会での説明の内容を見直し、改善した。 広報ツールとしては、ホームページにおいてはブログをはじめ、その他のページを更新したが、改善の余地はまだ十分にあると考えている。高校においては、共学特設サイト、インスタグラムや Facebook、YouTube 広告などを使って教育内容を配信すると同時に、タブロイド紙を作り中学校に配布を行った。中学においては、インスタグラムや YouTuve 広告などを使って教育内容を配信した。 結果及び評価に関しては具体的方策①で示した通りである。 ＜次年度の課題と改善策＞ オープンキャンパスの内容に関してはさらに改善できるように入試広報部を中心に検討、実施を行なっていく。また、ホームページや広報ツールに関しても入試広報部において本年度の効果を検証し、より効果的になるように努めていく。	自己評価 A

９．学校関係者評価

（１）学校関係者評価委員会の構成
後援会代表２名・愛友会（同窓会）代表２名・教育会代表（高校副会長及び中学副会長）２名
中高教員代表（校長・副校長・教頭）３名　計９名

（２）開催日時
令和５年６月２４日（土）１０：００～１１：００

（３）評価のために使用した資料
２０２２年度　学校評価報告書原案
・学校目標と具体的方策及び評価指標　　・学校評価アンケート（保護者・教員）と結果分析及び評価
・生徒授業評価アンケートと結果分析及び評価　　・自己評価及び次年度の課題と改善策
・２０２３年度の方針（教育改善ＰＤＣＡサイクルのイメージ）

（４）学校関係者評価委員会における意見
＜中学・高校について＞
・男女共学になって、男女が外で遊ぶ姿を見て共学になったことを実感する（良い印象）。
・パンフレットの内容に関して、情報過多になっており、信愛の売りが見えにくい。
・信愛に入学させたいと思うのは学習と心の教育の両方が揃っていることが重要である。
＜中学について＞
・共学になったことで良かった面も大きい。優しい男子生徒が多かったり、今まで内部小学校では女子しかいなかったために、男子生徒と話す機会ができたりした。
・共学１期生は、小学校４年生の時に小学校の共学化が決まり、その後、中高の共学化も決まって、かなり混乱し、本来内部進学する予定だった児童も外部受験に流れてしまった事実もある。
・生徒指導に関して、課題点が読み取れるため、対応を強化（いじめ事象や問題行動に関しては、入学前に保護者に一筆書いてもらうなど）しても良いのではないか。
・「いじめ」や「からかい」の基準が生徒・保護者で認識が異なり、SNS 等による今までになかった問題などがあるため、学校の指導も難しいのではないか。
・学校では「いじめ」に関しては、相手が「いじめ」と感じた場合、「いじめ」として対応している。
・年に２回、保護者経由でアンケートを実施し、問題に発展する可能性のある事案に関しては確実にアプローチするようにしている。
・学校の生徒指導に関する（「いじめ」や「からかい」等）アンケートでは、対応以前のことと、対応自体の両面で回答があるため、予防の面からの指導が重要である。
・中学１年生のときは、ある程度小学校の延長で「にぎやかさ」があっても許容できたが、中学２年生になってもいまだに授業態度などで注意されるようなことがあることは問題であり、学校全体の問題として改善しなければならない。
・中学校の教科指導・授業について要検討事項があり、学習環境を整える観点からも、外部受験に関してある程度レベルを保った選抜が必要と考える。
・以前は、信愛小学校から内部進学をする際に小学校からの推薦が必要であった。この推薦に関しても再度実施することを検討しても良いのではないか。
・中学校の学習環境の充実を図り、授業だけでなく放課後等の充実した学習指導をアピールすることも必要である。
・中学校段階から、大学受験に関する情報を発信（進路講演会等）していくことも重要である。
・知り合いから聞かれることが多いのは「塾が必要か」「お弁当が必要か」の２つである。逆に「塾は必要ない」「給食等でお弁当は必要ない」ことが実現できれば、中学の受験生も増えるのではないか。
・現行の授業料免除などの奨学生制度を大きく打ち出しても良いのではないか。
・中学受験については、奨学金などで学校選びをすることが少ないことも事実としてある。
＜高等学校について＞
・高校の在校生の保護者から塾に通っているという話を聞く。学校で「学びのコンパクト化」を打ち出しているのであれば、在校生の更なる利用促進を図る必要がある。
・受験に関する情報配信を生徒のみならず、保護者にも徹底していくことが必要である。
・夏休みに関して、現在実施している夏期講座Ⅰ期・Ⅱ期に加えて学習指導をさらに行っても良いのではないか。
・特進コースの校内予備校は高１と高２となっているが、高３も必要ではないか。
・高３は校内予備校ではなく、学校独自の補習や個別の学習指導の方が効率良いと考えているが、今後検討する。

１０．2023 年度（令和 5 年度）の方針（教育改善ＰＤＣＡサイクルのイメージ）

P

1　目指す教師像の実現
2　スクールミッション・スクールポリシーの実現
3　ICT の活用充実
4　学習意欲及び学力向上
5　進学実績の向上
6　入学者数の増員

⇩

D

1　教員の意識向上と行動の変容の促進を目的にしたモチベーション･マネージメント制度の実施
2　教員及び生徒の自己評価の実施 及び スクールポリシーに沿った各教育活動(行事等)の実施(要項への明記や振り返りの実施)
3　Chromebook の利用調査及びICT を積極的に活用した授業及び研修会の実施
4　授業評価アンケート振り返り・共有の実施 及び 英検・GTEC スコア・漢検の各学年における指標に向けた学習活動の実施
5　希望する進路を実現するための学習指導 及び 進路指導における担任と教科担当者の連携強化の実施
6　学びの環境充実（各コースの特性あった効果的な教育課程、質の高い授業に加え、放課後学習の整備及び拡充）のアピール、募集ターゲットの明確化(入試基準の見直し)、HP や SNS による効果的な広報活動の実施

⇩

C

1　教員のモチベーションマネジメント制度・FF シートの分析
2　教員・生徒・保護者による自己評価アンケートの分析
3　教員・生徒・保護者による自己評価アンケートの分析
4　各学年及び教科による分析
5　進路指導部及び高３学年会による分析
6　校務調整会議 及び 募集広報連絡会における分析

⇩

A

1　行動変容の実践
2　具体的教育内容の実践
3　ICT を利用した授業改革の実践
4　各指標達成のための指導改善の実践
5　各指標達成のための取り組み改善の実践
6　改善した教育内容の始動 及び 広報活動の実践